

学校評価

I V Y大分高度コンピュータ専門学校

開催年月日： 令和8年5月29日

委 員：

所属	種別
公益財団法人ハイパーネットワーク研究所 理事 凍田 和美	有識者（業界団体）
国立大学法人 大分大学助教 大城 英裕	有識者（学術関係）
株式会社ザイナス システムディベロップメント事業部システムセンター部長 後藤 雅明	企業委員
株式会社アーネット 取締役事業部長 多嶋田 哲也	企業委員
アンプリファイ 代表 新名 康行	企業委員・卒業生

【令和7年度 学校関係者評価】

学校関係者評価委員まとめ

項目	自己評価	適/不適	評価	評価に係る提言・今後の改善等
(1) 教育理念・目標	3.9	適切	・「人間力の育成」は今後さらに重要視される項目であり、それに沿った素直な生徒が多い ・IT業界のニーズとして、AIを利用できつつもITの基礎情報が理解できる人材を欲している。その状況を教師陣が良く考え、適切なカリキュラムを用意していると感じる ・生徒一人一人意向を引き出すための、度量の広い校風は、理念と合致していると感じる ・学校理念・教育目標・育成人材像が明確に整理されており、専門分野の特色を踏まえた教育方針が確立されている ・資格取得や就職を重視した実践的職業教育が展開されており、業界ニーズに対応した教育体制が評価できる ・学校の将来構想や教育目標が比較的明確であり、地域社会や産業界との連携を意識した教育運営が行われている ・IT分野を中心に社会・業界ニーズを踏まえた教育内容の改善意識が高く、教育改革への姿勢が見られる ・企業・自治体との連携や産学官協働に積極的に取り組んでおり、実践力・即戦力育成を重視する教育理念が特徴的である	・強いて言えば、主体性をさらに養うことが出来ると、社会での対応力は上がると考える ・問題ない。生徒が社会に出て活躍できるように。という点を重視しており、その準備としての教育ができていると思う ・「人間力の育成」に対して、社会のニーズは非常に高まっていると感じる。個性も尊重される現在に、どのようにして学生の主体性を引き出せるのか、今後の学校教育に求められるのかもしれない ・学校ホームページやSNSを活用し、教育成果・地域連携・学生活動などの情報発信を強化することで、外部評価向上が期待できる ・業界動向や国の政策変化を継続的に教育へ反映するため、企業連携委員会や外部評価体制をさらに充実させると効果的である ・「人間力育成」と「専門力育成」の成果を可視化するため、地域活動・PBL・インターンシップ等の実践教育を体系化するとより発展性が高まる